

上ノ庄田瓦窯跡

発掘調査現地説明会資料



1996年9月7日

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

かみ しょうだがようあと
上ノ庄田瓦窯跡

調査の場所 京都市北区西賀茂上庄田町
調査主体 (財)京都市埋蔵文化財研究所
調査の期間 1996年7月10日～現在継続中
調査の面積 約1,600㎡

I はじめに

今から1200年前、山背^{やましろ}と呼ばれていた現在の京都に平安京という都が造られました。この都の内裏^{だいり}や役所などの建物には瓦^かが葺かれていました。新しい建物の建築と共に瓦も大量に必要となり、賀茂川の右岸、舟山の麓^{ふもと}の一带にはこの瓦を焼くための多くの造瓦工房が造られました。現在その跡を西賀茂窯跡群と呼んでおり、今回調査された上ノ庄田瓦窯跡もその中の一つです。この瓦窯跡は昭和15年に木村捷三郎氏等によって一部が発掘調査され、その存在が明らかとなっていました。このときの調査では軒丸瓦・軒平瓦^{ほうおうもん}・鳳凰紋の鴟尾^{しび}などが出土し、瓦窯の構造が平窯であることなどが確認されました。

今回の発掘調査は、区画整理事業に伴う調査で、1995年8月から9月に試掘調査を行い、窯跡が残っていることと窯に続く西側の台地上に柱穴などを確認し、これを瓦作りを行った造瓦工房と考えました。調査は、工房跡部分と窯跡部分と2回に分けて行うこととなり、窯跡部分は来年度の予定で、今年度は工房跡の調査を行っています。京都市内では、このような造瓦工房の発掘調査の例は今までになく、当時の瓦作りのあり方を知る上で貴重な調査となると考えられます。

II 調査の成果

今回、調査が行われた場所は賀茂川によって削られた台地の先端にあたり、この最先端の傾斜地を利用して瓦窯が作られています。この台地の平坦面に今回の調査で明らかとなった瓦工房が存在したのです。確認された遺構は大きく2つに分けられます。1つは窯に直接関係するもので、窯跡^{しょうどこう}、焼土壌、排水溝などがあり、2つめは瓦を成形するのに関連した掘立柱建物^{ほったてばしら}などです。これらは空間的には溝をはさんで東と西に分かれ、瓦を焼く区域と瓦を作る区域に分けられていたようです。

窯跡 窯本体の調査は来年度ですが、今年の調査でも調査区の東端、台地の先端に平窯が4基並んでいることが確認されています。

排水溝 4基の瓦窯の西側には、長さ30m以上、幅2～3m、深さ0.4mの溝が瓦窯と平行して確認されました。この溝は、窯の存在する台地が西へ向かうに従い高くなっている地形を考えて、雨が降った時に水が窯に及ばないように掘られたものと思われます。溝の埋土の上層からは大量の瓦が出土しており、瓦が作られなくなった後に不要となった瓦を溝に廃棄したものと考えられます。

焼土壌 窯と排水溝の間には、長さ13m、幅3mの長大な土壌があります。この土壌は焼土と瓦で埋められています。土の堆積状況から排水溝よりも早く埋められているこ

とがわかります。窯跡を含めてこの部分の調査は来年度の予定であり、これがどの様な目的のものであったかは来年度の調査を待ちたいと思います。

建物跡 排水溝の西側には、2棟の掘立柱建物が確認されています。建物1は規模は2間(4.5m)×4間(8.0m)の建物で、桁行きの柱間は1.6~2.0mとばらつきがあります。建物2は建物1よりも小さく、規模は2間(4.2m)×3間(5.7m)、桁行きの柱間は建物1と同様にばらつきがあり、1.7~2.0mとなっています。柱掘形はいずれの建物も約40cm、柱跡は約15cm程度です。これらの建物は、建物規模、柱穴の大きさも小さい事などから、居住用のものではなく瓦を作るための作業小屋と考えられます。これらの建物の周辺には、いくつかの柱穴が確認されていますが、その数は少なく建物の建替えはほとんど無かったようです。

Ⅲ 出土した遺物

調査で出土した遺物は、大部分が瓦で土器類はほとんどありません。これは今回調査を行った区域が瓦を作るための場所であり、生活をする場所ではなかったためでしょう。排水溝と考えた溝から多くの瓦が出土しています。この中にどのような瓦があるのかはこれから整理作業を行わなければわかりません。しかし、瓦の文様の種類は限られており、上ノ庄田瓦窯で瓦を作っていた期間は短かったと思われる。

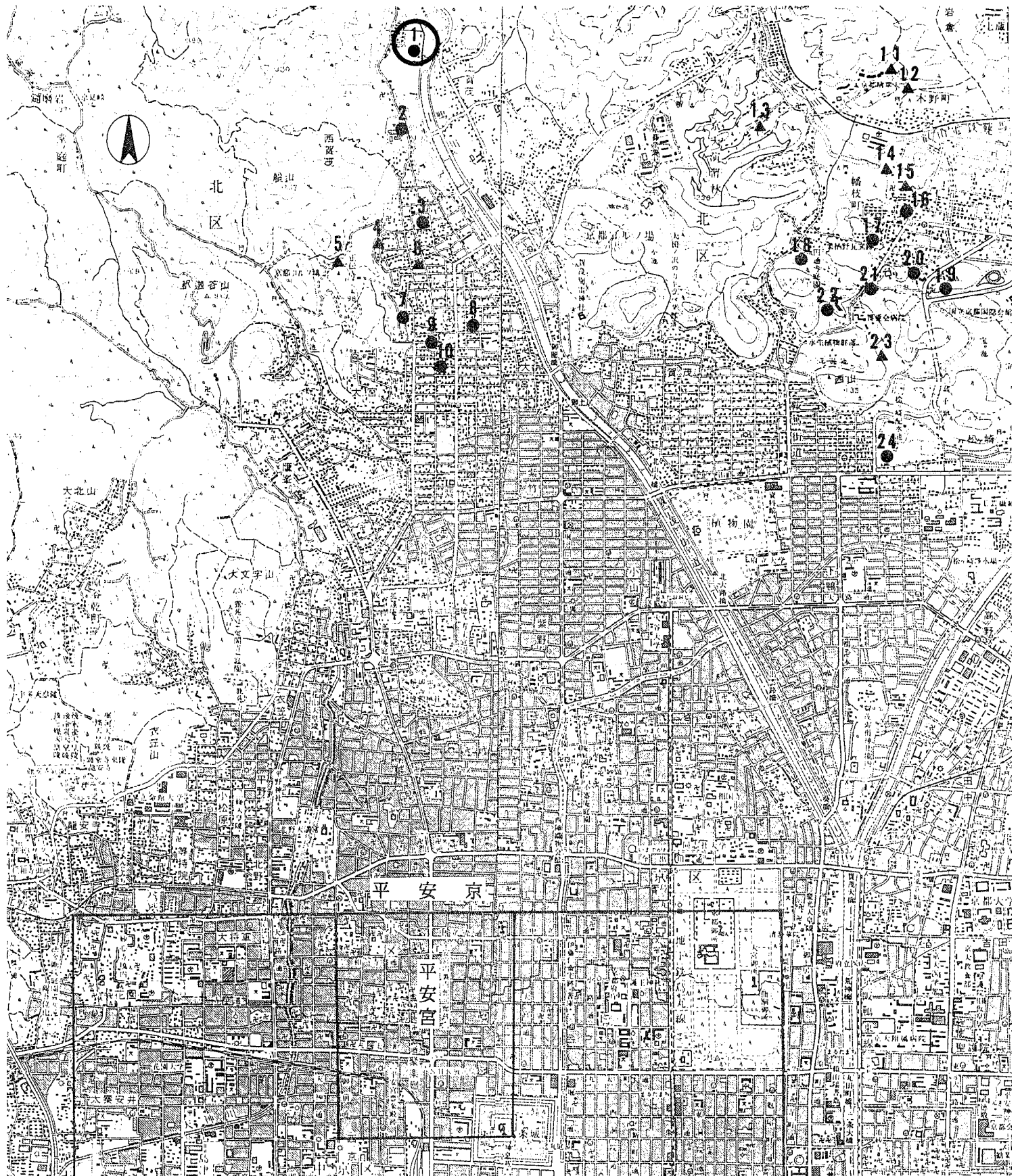
Ⅳ まとめ

今回、京都市内で初めて平安京に瓦を供給した瓦工房跡を調査することができました。これまで平安京に瓦を供給した瓦工房跡の調査は、大阪府吹田市の岸部瓦窯跡の例があるのみでした。瓦工房跡の調査は全国的にみてもその例が少なく、今回の上ノ庄田瓦窯跡で8例目でしかありません。瓦を作るには次のような作業工程があります。

- ①粘土の採集
- ②採集した粘土を瓦作りに適した粘土にするための加工
- ③粘土を瓦の形に成形
- ④成形した瓦を乾燥
- ⑤焼成

他の瓦工房の調査では、①の粘土を採集した跡、②の粘土を加工するための粘土溜めの大きな土壙、または③の瓦を成形するのに用いたロクロの軸を固定した小さな穴までみつかっています。

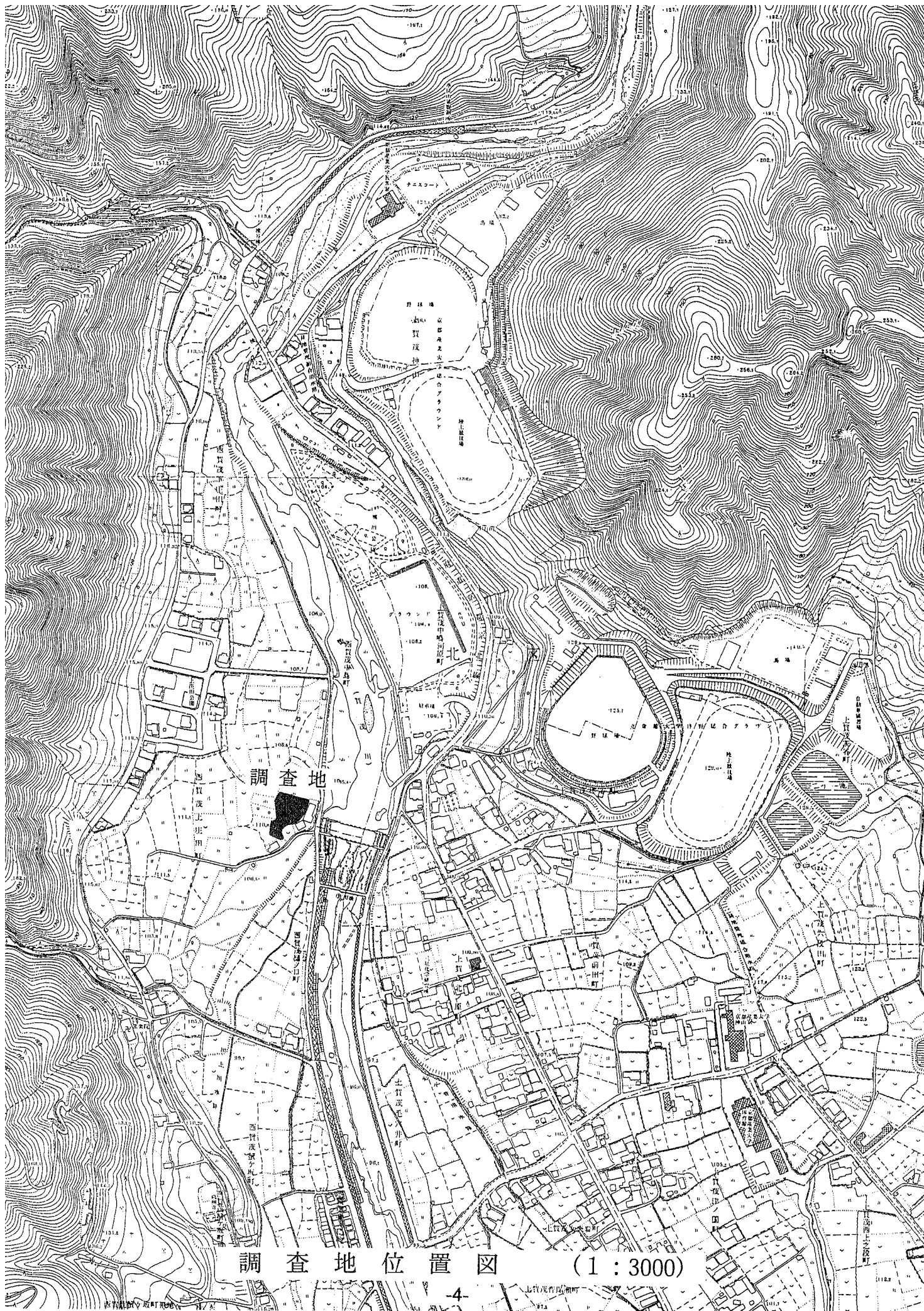
今回発見された建物跡は、窯と近接して作られていることや、出土するわずかな土器類もすべて平安時代のものであることから瓦工房跡であると考え、その機能としては③や④の瓦を成形したり陰干ししたりするための建物だったのでしょうか。平安京に瓦を供給した瓦工房の調査は今回でようやく2例目となり、今までの調査との類似点、相違点の比較が行われる中で当時の瓦作りの実態がより明らかとなることでしょう。



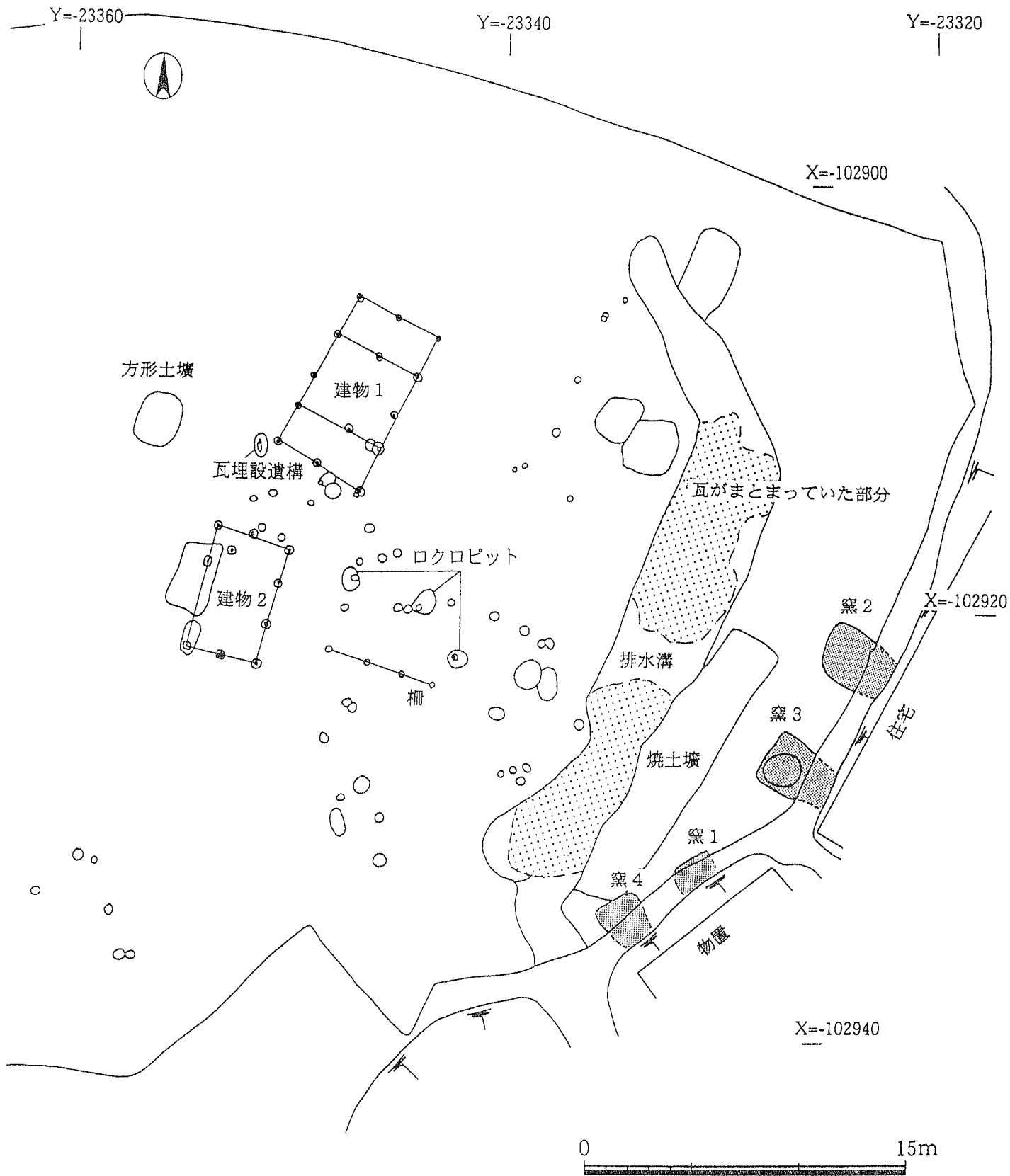
京都盆地北部の窯跡と平安京 (1 : 30000)

- 1 上庄田瓦窯跡 2 蟹ヶ坂瓦窯跡 3 醍醐の森瓦窯跡 4 船山窯跡 5 正伝寺窯跡 6 大深町窯跡
 7 鎮守庵瓦窯跡 8 河上瓦窯跡 9 角社瓦窯跡 10 大宮北山ノ前瓦窯跡 11 中の谷窯跡 12 木野窯跡
 13 本山遺跡 14 妙満寺裏庭窯跡 15 妙満寺窯跡 16 元稲荷窯跡 17 栗栖野瓦窯跡 18 円通寺瓦窯跡
 19 木野瓦窯跡 20 南池田窯跡 21 南ノ庄田瓦窯跡 22 深泥池瓦窯跡 23 深泥池窯跡 24 芝本瓦窯跡

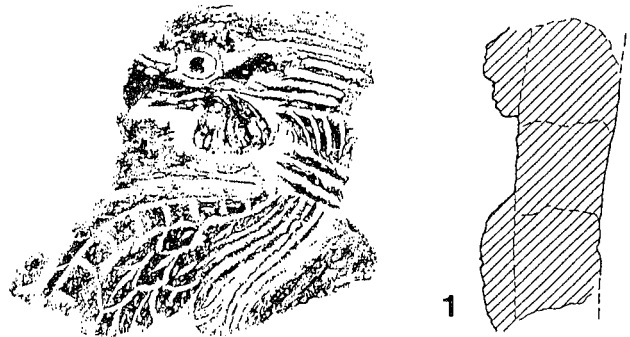
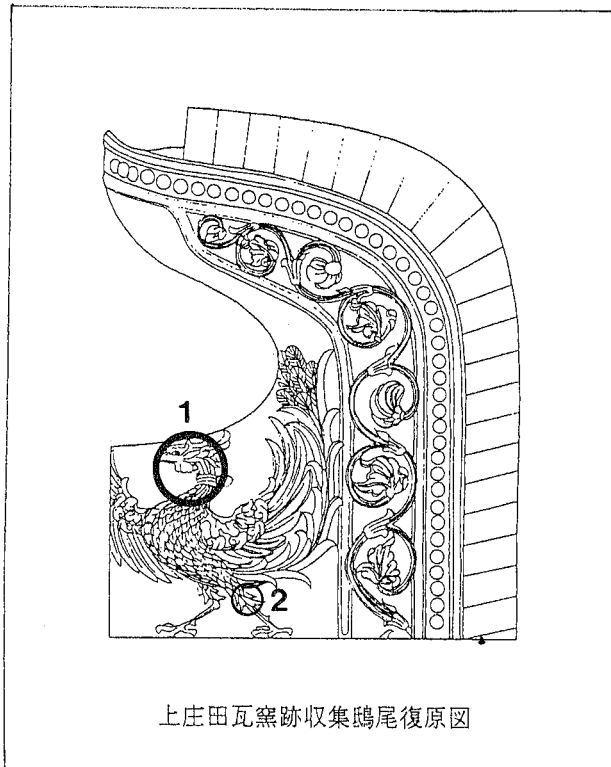
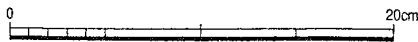
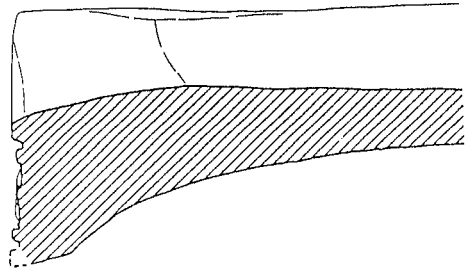
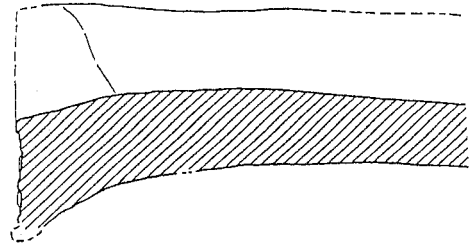
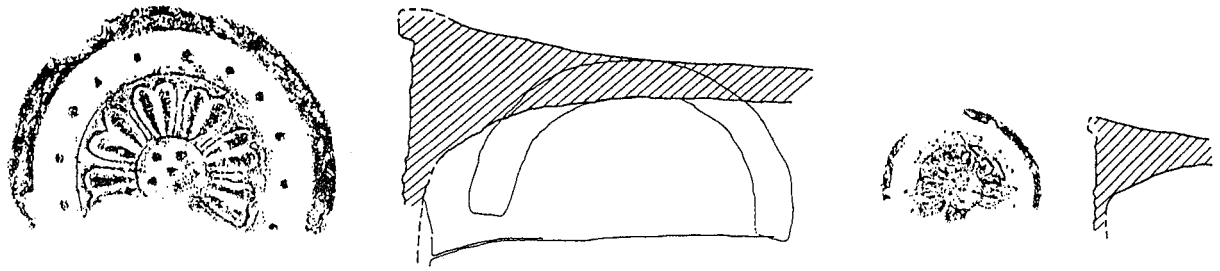
●瓦の窯跡 ▲須恵器、緑釉・灰釉陶器の窯跡



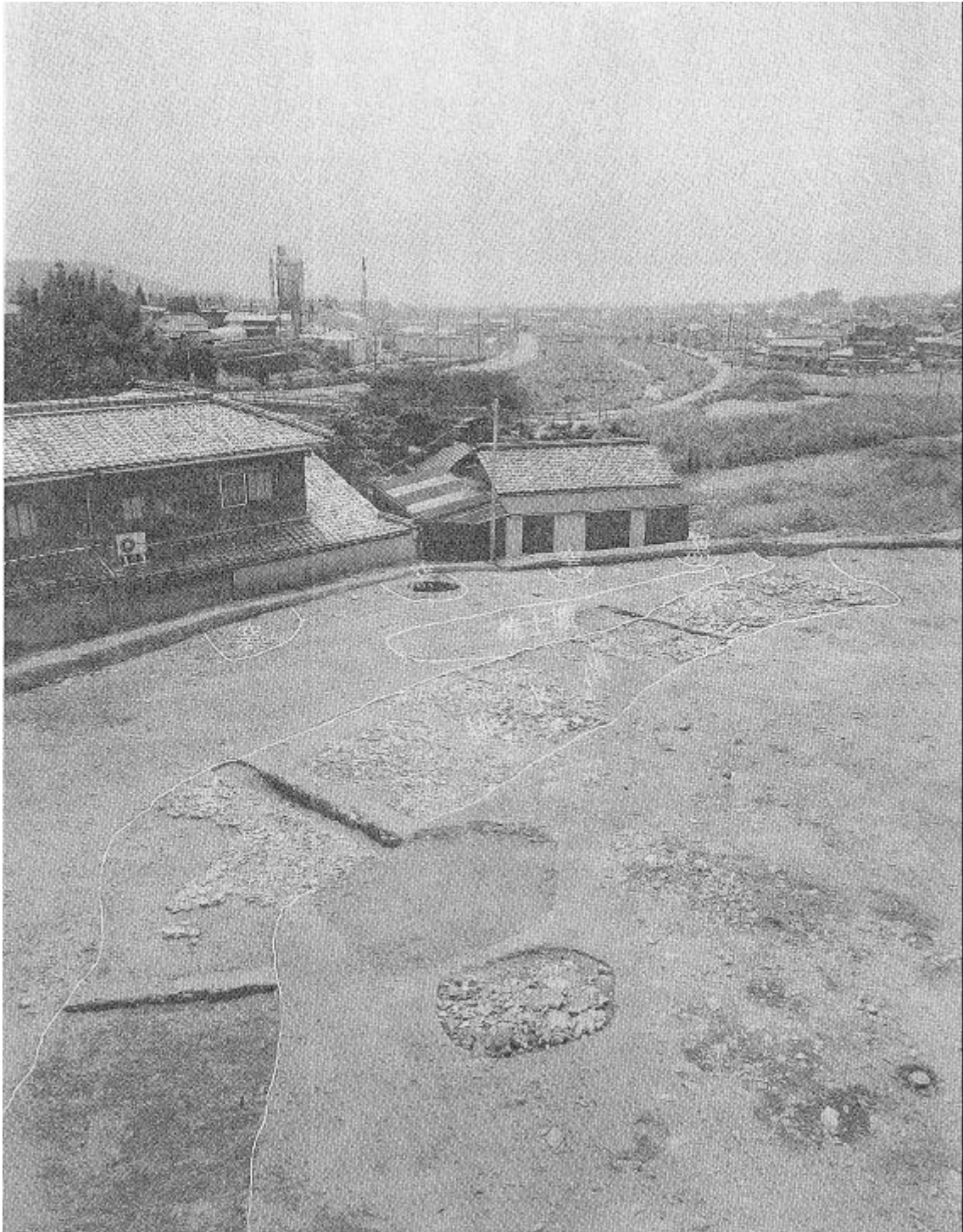
調査地位置図 (1:3000)



調査区平面図



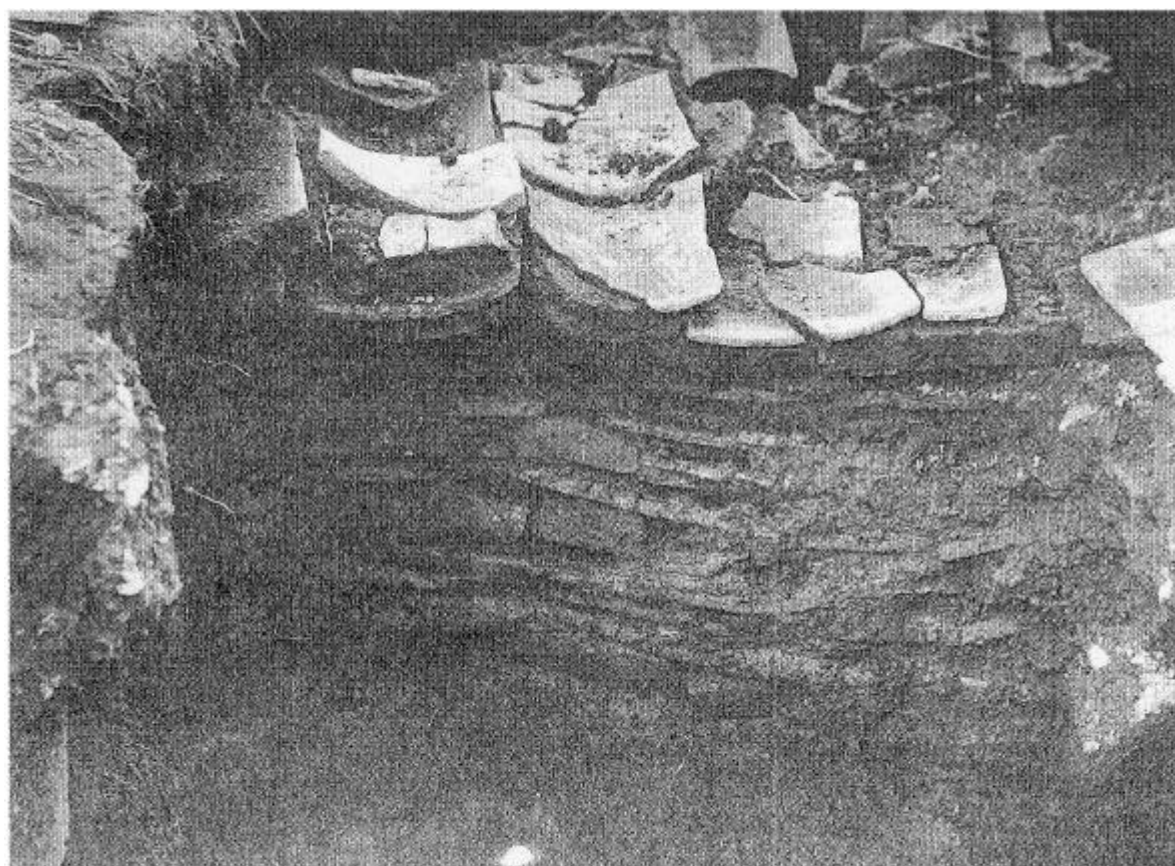
昭和15年の調査で出土した瓦 『木村捷三郎収集瓦図録』より



排水溝と瓦窯跡（北から）

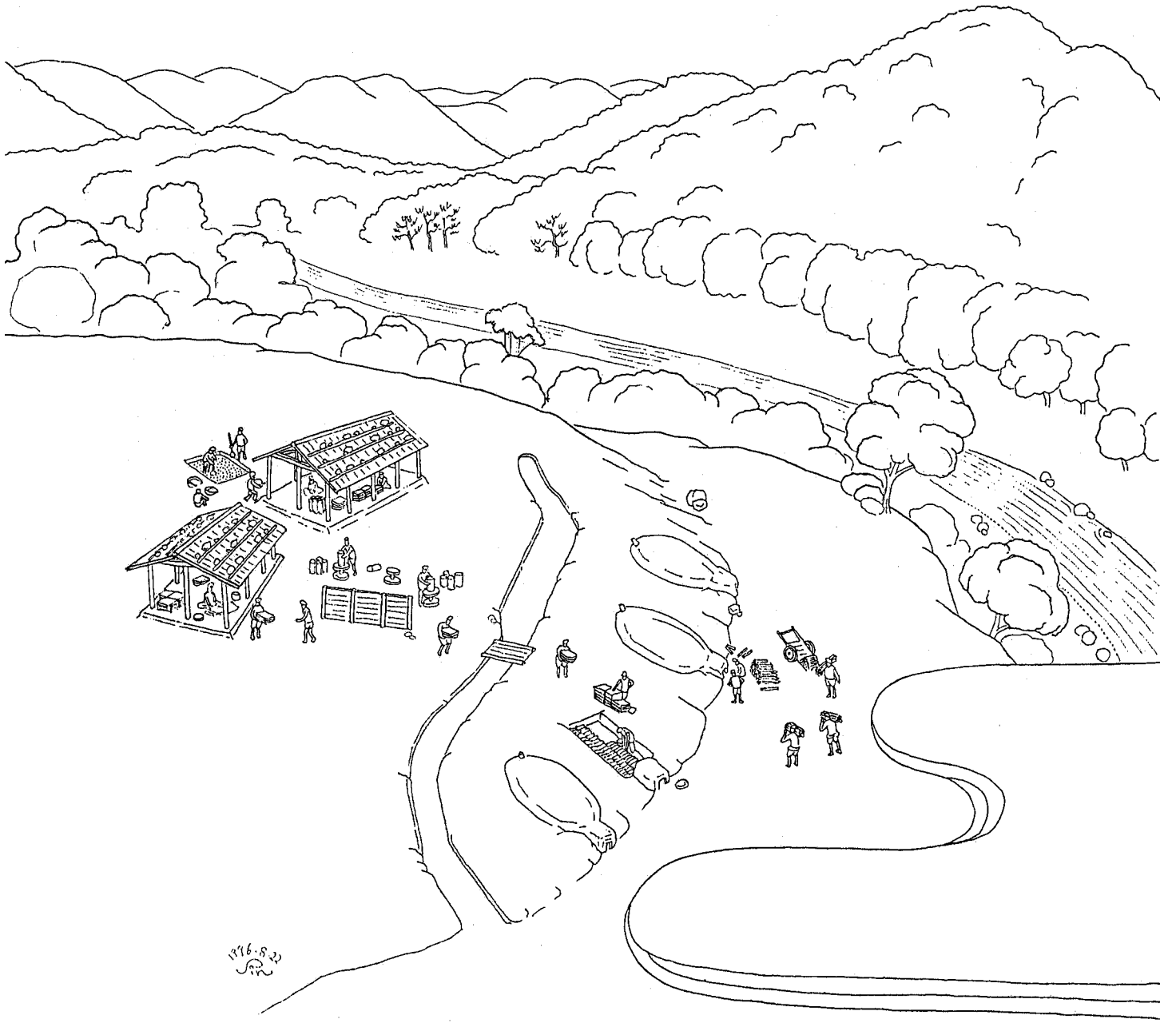


燃焼室



燃焼室壁面

昭和15年の調査（木村捷三郎氏所蔵）



上ノ庄田瓦窯操業復元図